

平成29年度県立磯子高等学校不祥事ゼロプログラムの検証及び評価

県立磯子高等学校は、事故・不祥事の発生をゼロにすることを目的として、次のとおり不祥事ゼロプログラムを定め、実践した。その結果を総括して報告する。

(課題1) 法令遵守意識の向上（公務外非行の防止）

(取組) 法令違反のないようにする。

(目標) 公務外非行を起こす職員はゼロにする。

(行動) 校内グループウェアシステムにより法令違反を起こさないよう注意を喚起する。また、公務外非行を起こさない事は人として当然のことである。

(検証及び評価)

校内グループウェアを利用して注意喚起をしてきた。公務外非行はおこらなかった。

(課題2) 体罰、不適切な指導の防止

(取組) 反抗的な生徒・わがままな生徒がいた場合、生徒の話に傾聴しつつ話の筋道を理解させる指導をする。

(目標) 体罰、不適切な指導がないようにする。

(行動) 校内グループウェアシステムにより体罰、不適切な指導がないよう注意を喚起する。指導の難しい生徒に対しては複数の教員で対応する。

(検証及び評価)

生徒の主張を受け入れつつも、教員側が譲れない線を理解させることで、生徒と教員の無用な衝突を避けることができ、不適切な指導の発生を予防した。

(課題3) 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策

(取組) 個人情報等の管理、情報セキュリティの徹底と意識の向上

(目標) 個人情報に対する意識を向上させ、流出事故を防ぐ。

(行動) 個人情報の取扱いに関する諸注意を校内グループウェアシステムに掲載すること等により注意を促し、個人情報の流出を防ぐ。対策重要度Ⅰにかかわる個人情報は暗号化システムに保存する。

(検証及び評価)

校内グループウェアシステムに掲載すること等により注意喚起した結果、個人情報等の管理に対する意識が向上し、事故の発生を防ぐことができた。

(課題4) 調査書・通知表等の作成、成績処理に係る事故防止

(取組) 調査書・通知表等の作成、成績処理における事故を起こさないようにする。

(目標) 調査書・通知表等の作成、成績処理における事故防止を徹底する。

(行動) 調査書・通知表等の作成、成績処理において複数の目による点検体制を再確認し、徹底する。また、作成に当たってはある程度余裕をもった日程の作成も必要である。さらに校内グループウェアシステムに掲載すること等により注意を促す。

(検証及び評価)

校内グループウェアシステムに掲載すること等により注意を促してきた。余裕を持った成績処理日程を組み、チェック体制を強化したことで事故の発生を防ぐことができた。

(課題5) わいせつ・セクハラ行為の防止

(取組) わいせつ・セクハラ行為がないことは当然であり、また、セクハラ行為と疑われるような言動も慎む。

(目標) わいせつ・セクハラ行為がないようにする。

(行動) 校内グループウェアシステムによりわいせつ・セクハラ行為を起こさないよう注意を喚起する。また、わいせつ・セクハラ行為を起こさない事は人として当然のことと自覚する。

(検証及び評価)

校内グループウェアを利用して注意喚起をしてきた。わいせつ・セクハラ行為はおこらなかった。

※ 校長による職員との個別面談を実施し、職員一人ひとりの状況を把握することで、不祥事防止の徹底を図った。